

## 正 誤 表

### 『整形外科卒後研修 Q&A』（第 8 版・第 1 刷）

下記の箇所にて誤りがございました。謹んでお詫びし訂正いたします。

| 頁          | 該当箇所                     | 誤  | 正  |
|------------|--------------------------|--|--|
| 問題編<br>43  | 問 3-2-27<br>選択肢 b        | <u>リドカインの極量は 200mg である。</u>  | <u>アドレナリンを含有しないリドカインの浸潤麻酔の基準最高用量は 500mg である。</u>   |
| 問題編<br>101 | 問 4-9-19                 | <u>2 つ選べ。</u>  | <u>3 つ選べ。</u>  |
| 問題編<br>103 | 問 4-9-31                 | <u>不適切問題</u><br>* 脛骨神経は足根管の近位で分枝する症例も認められ、選択肢 d は正解とはいえない。よって、本問は不適切問題である。 |  |
| 問題編<br>230 | 問 7-2-2<br>選択肢 b         | 反 <u>体</u> 側股関節  | 反 <u>対</u> 側股関節  |
| 解説編<br>34  | 問 2-1-35                 | a, b, e のそれぞれ 1 行目：<br>坐位で <u>椎骨動脈</u> を触知しながら                             | 坐位で <u>橈骨動脈</u> を触知しながら  |
| 解説編<br>59  | 問 3-2-27 の解説<br>上から 9 行目 | <u>リドカインの極量は 500mg である。1%リドカインの場合は 50mL である。</u>                           | <u>アドレナリンを含有しないリドカインの浸潤麻酔の基準最高用量は 200mg であり、1%リドカインの場合は 20mL である。アドレナリン含有 2%リドカイン（1：80,000）の場合には、浸潤麻酔の基準最高用量は 500mg である。</u> |
| 解説編<br>145 | 問 4-9-19                 | 正解 b, c  | 正解 <u>a</u> , b, c   |
| 解説編<br>145 | 問 4-9-19 の解説<br>下から 2 行目 | <u>翼状肩甲の原因になる前鋸筋は長胸神経支配であり、副神経の障害で麻痺は起こらない。</u>                            | <u>翼状肩甲は前鋸筋麻痺で起きるが、副神経損傷による僧帽筋麻痺でも起きることがある。</u>  |
| 解説編<br>149 | 問 4-9-31                 | <u>不適切問題</u><br>* 脛骨神経は足根管の近位で分枝する症例も認められ、選択肢 d は正解とはいえない。よって、本問は不適切問題である。 |  |
| 解説編<br>151 | 問 4-9-38 の解説<br>上から 3 行目 | <u>回内</u> が障害される。  | <u>回外</u> が障害される。  |
| 解説編<br>168 | 問 5-2-20 の解説<br>上から 1 行目 | 変形性肘関節症の場合、 <u>特定の部位</u> の軟骨障害が多いわけでは                                      | 変形性肘関節症の場合、 <u>軟骨障害</u> は腕橈関節に多く、骨棘形成は腕  |

|            |           |                               |                |
|------------|-----------|-------------------------------|----------------|
|            |           | なく、腕尺、腕橈、近位橈尺関節のいずれにも軟骨障害は及ぶ。 | 尺、近位橈尺関節に多い。   |
| 解説編<br>230 | 問 5-10-20 | 正解 <u>a</u>                   | 正解 <u>c</u>    |
| 解説編<br>296 | 問 6-3-140 | 正解 <u>b</u>                   | 正解 <u>c</u>    |
| 解説編<br>305 | 問 6-5-15  | 正解 <u>b, c</u>                | 正解 <u>b, e</u> |

2024年2月9日  
株式会社 南江堂